

令和7年度 (一社)栃木県子ども会連合会 育成者・指導者研修会

「子どもの手によるクリスマス会」を開催しよう！

～「子どもの手による子ども会」の実現に向けて～

研修実施の背景・ねらい

◆子ども会においては、
長年「子どもの手による子ども会」の推進等が謳われてきたものの
具体的・実現的な方法論や手法等は、ほぼ存在しない。

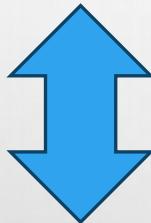
⇒ 長きに渡り、地域の指導者の手探り的な実践に頼るばかりの状況

◆栃木県子連においては、昭和61年に初版「子ども会マニュアル」、平成28年に
「子ども会活動のしおり」を作成し、一定具体的な内容となっているが…

⇒ 每年役員が変わる単位育成会等へ対し、広く普及しているとは言い難い。
肝心な地域の保護者・育成者等には届いていない。

歴史的には、

全国各地で子ども会組織が続々と発足していった昭和40年代初頭の頃には、「子どもの手による子ども会」は、既に子ども会活動の**基本的な理念**であり、**目標**であった。



but

そもそも、子ども会(子どもの会)では、子ども達が自由に、場所や時間や内容やルールを決め、異年齢集団で遊んだり、遊びを通じた体験活動をしていた。それが、子ども会の基礎的なものであるならば、その衰退は、**大人たちが原因**かもしれない

近年においては、

子ども会を取り巻く様々な課題や社会問題・社会的課題等も相まって、

「そんな言葉は知らない・聞いた事がない」「どーゆー意味か分からぬ」

などの育成者(保護者等)の声も…

今後、その理念や考え方までもが失われる危機か…

- ・子どもの多忙化（機会の多様化）
- ・子ども会事業の閉塞化や会員減少
- ・父親の不参加・不参画
- ・地域コミュニティの崩壊危機

- ・子どもの遊びの変化
- ・教育格差の拡大
- ・母親の就業率の増加
- ・各種団体の担い手不足

- ・役員・保護者の負担・負担感
- ・少子化や人口減少社会の進展
- ・人間関係の希薄化・組織帰属意識の低下
- ・Society4.0 から Society5.0へ 等々

そのような事から、、

子ども会事業を例に、そのプロセスに具体的にアプローチすることで、

メリットやデメリット等を明らかにするとともに、

今一度、「子どもの手による子ども会」を**実践可能な目標**とすることや

子ども会活動の「**楽しさ**」や「**有意義さ**」を 改めて再認識する一助としたい。

研修内容

皆さんは単位(地区)子ども会の役員 又は 助っ人ボランティアです。

○○○単位(地区)子ども会が、

12月21日(日)にクリスマス会を行うための、

10月1日～1月18日までの

「子ども会」と「育成会」の具体的なスケジュール表を作成してください。

まずは、step1

「子どもの手によるクリスマス会」って

どんなクリスマス会？ どんな姿？ どんな状況？

か考えてください

誰が？

何する？

役割は？

どうやってやる？

いつやる？

いつからやる？

それどーゆー事？

◆活動の規模を設定する(step2-1)

A 子どもの人数 80人 の子ども会（各学年 12人 + 幼児8人）

B 子どもの人数 40人 の子ども会（各学年 6人 + 幼児4人）

C 子どもの人数 12人 の子ども会（各学年 2人 ）

◆クリスマス会の内容(メニュー)を決める(step2-2)

⇒ ステップ1で導いた「姿」を具体化するためのメニューを決める

* この後の話し合いの中でメニュー変更、方向転換等もあります

◆内容(メニュー)と同時に「開催場所」や「開催時間」も考える

* この後の話し合いの中でメニュー変更、方向転換等もあります



◆具体化するためのメニューから、逆算して、スケジュールを考える(step3)

～記載や説明する時の注意～

誤認識しやすい語句等は、皆が共通認識できるように(誤解しないように)
書いたり・話したりしてください。

- ・単位子ども会（自治会や町内会単位等で結成される子ども会）
- ・自治会(町内会)育成会（単位子ども会を支援する自治会等単位の育成会）
- ・地区子連または地区(地域)育成会（地区や地域の育成会）
- ・子ども会会长（子どもの会の会長）
- ・育成会会长（育成会の会長）
- ・自治会公民館・集会所（自治会・町内会単位の集会所等）
- ・地区公民館・生涯学習センター（地区や地域にある主に行政が運営する公民館等）
- ・児童会館（例えば、「○○町運営」とか「民営」を入れる）

◆クリスマス会への予定表の作成

- ・本番:12月21日(日)
 - ・10月1日～1月18日までの予定を記入

* 上記全期間でなくても良いです(例えば12/3~12/21の予定で終了とかでもOK)

「制約の壁」を考慮しない事業は持続しない

⇒ それぞれの組織や地域にある「壁」を考慮し、クリアできるビジョンを描く事が肝要

例えば、こんな「制約の壁」があったらどうする？

- ・保護者の負担が大きいので加入しない（役員になってしまふ、会社を休まなければならぬ、夜の会議が多い）
- ・子どもが習い事や部活で忙しいので参加しない。加入しない
- ・親も仕事が忙しいし、休みの日は家族で過ごしたいので加入しない。
- ・子ども会に入らなくても様々な体験ができる。
- ・子ども会がどういう活動をしているのか分からない。
- ・行事がつまらなそう。時代に合わせてもっと子どもが喜ぶような事業を。
- ・各家庭で参加する組織や団体が多くので、入らないで良いものは入らない。
- ・入会・退会の自由度が低い。
- ・子ども会は必要ない、つまらない ⇔ 非日常的ではあるが、特別な行事ではない。
- ・役員の1年交代等により、活動の活発化や深化、魅力向上等が困難。
- ・育成会に子どもを育成できる人がいない
- ・地域活動には興味がない。参加しなくても大丈夫なので参加しない
- ・研修会等へ行くのは面倒だし、敷居が高い。他にやる事がある
- ・子ども会に加入するメリットがわからない
- ・子ども会って何のためにあるの？

でも…

完璧な「子どもの手による子ども会」じゃなくても良いんじゃない

育成者(保護者等)も子どもも無理ない形で… 例えば年に1回だって…

他の人の力を借りたって… 時間をかけなくたって…

子どもたちが主体的に取り組めれば、

きっと子どもたちにとって楽しい活動になるはず

それは周りの育成者にとっても、とても楽しい活動のはず ですよね きっと 😊